

原子力災害による風評被害を含む影響への対策タスクフォース
概要メモ

日 時 平成28年10月7日(金) 14:10~15:10

場 所 合同庁舎4号館4階第2特別会議室

【復興庁】 今村復興大臣、長沢復興副大臣

西脇事務次官、小系統括官、大鹿審議官、

増田参事官、藤田参事官、遠藤参事官

【内閣府】 後藤 内閣府大臣官房政府広報室総括参事官

東條 内閣府食品安全委員会事務局次長

田中 内閣府原子力災害対策本部 福島原子力事故処理調整総括官

【消費者庁】 吉井 審議官

【外務省】 山野内 経済局長

【文部科学省】 関 大臣官房総括審議官

【厚生労働省】 橋本 大臣官房審議官（健康、生活衛生担当）

【農林水産省】 塩川 大臣官房危機管理・政策評価審議官

【経済産業省】 星野 大臣官房審議官（地域経済産業政策担当）

【観光庁】 加藤 観光地域振興部長

【環境省】 梅田 総合環境政策局環境保健部長

【原子力規制庁】 片山 核物質・放射線総括審議官

【防衛装備庁】 田中 プロジェクト管理部長

（オブザーバー）【福島県】 野地 風評・風化対策監兼知事公室長

事務局より、本タスクフォースの開催趣旨を説明。

福島県より、福島県における風評対策の現状と農産物の風評被害に対する今後の方向性等を、資料に基づき説明。

復興庁より、G7伊勢志摩サミット及び各閣僚会合における震災復興広報について、資料に基づき説明。

関係各省庁より、省庁が連携して進めた施策として「消費者向け情報発信・リスクコミュニケーション」、「海外での風評払拭」、「福島県産品の販売促進」、「教育旅行を含む観光分野」の4つの分野について説明した後、各省庁の平成27年度事業実績、平成28年度実施状況及び平成29年度事業の方向性などについて、資料に基づき説明。

また、復興庁より福島フードファンクラブ「チームふくしまプライド。」の設立について、資料に基づき報告。

その後、以下のとおり意見交換を行った。

(意見交換の概要)

○長沢復興副大臣

2点、各省庁にお願いしたいことがある。

1点目、霞が関の本省、地方支分部局も含めて福島フードファンクラブ「チームふくしまプライド。」へ参加をお願いしたい。

2点目、G7関連会合における情報発信への協力に感謝申し上げるとともに、こうした取組を一度限りとせず、今後においても特に国際会議等で積極的な情報発信を行っていただきたい。

本タスクフォースで関係省庁の事務方と行っているフォローアップを、関係省庁の政務とも連携して随時フォローアップしていきたい。戦略を組み合わせながらこのタスクフォースを進めていきたい。

○今村復興大臣

副大臣からもあったように、もう少し頻繁に開催し、また、会議がなくてもいろいろな情報交換ができるよう、仕組みを考えていきたい。

震災から5年経ってソフト・ハードの両面でいろいろな整備ができ、それをどうや

って生かしていくかという新しいステージにきている。うまく使うことで、特に福島県に頑張ってもらいたい。知恵の種は現場にあるので、コミュニケーションよく連携してもらいたい。

「花より団子」で、建前と形を整えるのではなく、実際どうしたら風評被害が消えて、いろいろな物販、食料が売れていくのかということに、いろいろな知恵を出して考えてもらいたい。世界一厳しい安全基準をちゃんとクリアしているということのアピールし、消費者の立場になって、取組を行っていただきたい。

(意見交換はここまで)

意見交換後、今般の風評対策強化指針のフォローアップについて、事務局から説明。その後、今村復興大臣より以下の通り指示。

○今村復興大臣

以下についてお願いしたい。

1点目は、正確で効果的な情報発信と輸入規制解除に向けた取組の強化。厳しい基準をクリアしているということをもっとアピールして行ってほしい。海外向けの取組は、在外公館等を活用して進めてほしい。

2点目は、被災地産品の販路拡大の促進。消費者の心情に寄り添い、実のある仕組みを作ってもらいたい。「チームふくしまプライド。」が一つのきっかけであるし、たとえば県人会の活用やポイントカード等の仕組みを作るなど、福島物を買ってみようかという気持ちになる仕組みを作ってもらいたい。いわば、「花より団子」ということで、皆さんや現場のアイデアを受け止め、柔軟に対応してもらいたい。

3点目は、教育旅行ほか国内外から東北への観光誘客の一層の促進。各県一体となって東北の魅力を発信して行ってほしい。

アピールを強化し、力を合わせ、コミュニケーションをよくすることで、復興を加速化させていけるようお願いしたい。

以上